Agar の語源について

佐藤正己

寒天のことを英語で agar, ドイツ語で Agar-Agar と云うことは藻類学者ならずとも知つていることであるが，さてその語源となるとどうだろう。西欧語には極めて異例な同じ語を繰返えす Agar-Agar が，どうも西欧起源のものとは思えないし，寒天そのものが日本原産のものだからどうも不思議である。

筆者はボゴル植物園滞在中に，ジャワでも熱処理法で寒天を製造していることと，インドネシア語が名詞の複数を示すのに同じ単語を繰返すのが通則であることとを知つて，一応インドネシア語に起源を発すると云う解決法を考えた。然しこれも完全な解決でないことは，筆者自身も以下に述べるような理由で認めざるを得ない。

インドネシア語では人は orang で，複数形の人々とか一般大衆とかは，orang-orang（略して orang^2 と書く）である。それで agar が海藻で agar-agar が寒天なら文句はないが，agar と云う名詞はなく，agar（又は agar supaja）は英語の in order to とか so that の意味の副詞で，agar-agar と複数形の語だけが名詞として存在し，海藻，寒天，ゼリーを意味する。インドネシア語では同一語を繰返えしたものが常に複数形と云うわけではなく，api は火であるが，api-api はマッチと云うような例もあるが，筆者の乏しいインドネシア語に対する知識から云えば，名詞以外の単語を繰返えして名詞となる例は他にないようである。此処が解決されない疑問点で，読者諸賢の御教示を得たいと思つている。

次にジャワに於ける寒天の製法を簡単に紹介しておこう。

原藻はオゴノリ属のもののようであつたが，これを煮てどろどろにしたものを染物屋の色揚げの時のように，戸外にぴんと張つた布の上にぬりつけると，焼けつくような炎天下で，水分はどんどん蒸発し，布の表面に薄い被膜状に乾固する。これを剝ぎとると半透明の厚紙のようなものが出来上り，寒天と云うよりはゼラチンと云つた方がよいような感じのものである。粘度も低く，とても寒天培養基などには不適で，専ら菓子製造用に利用されていた。ボゴル植物園のトロイブ実験室の倉庫には山のように寒天が貯蔵してあ

つたので，秘書のライネン女史に何処産のものかと聞いたら，「勿論あなたのお国，日本産ですよ」と，呆れたような顔をして返事をした。戦前は寒天は日本の特産であつたから，こんな質問をする方が悪かつたのかも知れない。

(茨城大学文理学部生物学教室)

北米合衆国化石藻類学界の近況

小 西 健 二

名実共に化石藻類学界の大御所であつたウィーン在の PIA を失つてから既に 10 余年になるが，この間北米では在 Colorado School of Mines の JOHNSON 教授が幾つかの入門書の刊行を含めて学界に幾多の貢献を続け，英国の WOOD，フランスの LEMOINE，ノルウェイの HØEG 等と共に此界の指導的地位にある。他に現在此の地で最も活躍している化石藻学者としては，在 Missouri 大の PECK，在地質調査所 (Denver) の REZAK，在 Miami 大の GINSBURG，在 Nebraska 大の ELIAS の諸博士があげられるが，以下簡単に此等北米の人々の近況を本欄を借りて御紹介してみよう。

PECK 博士は化石輪藻の泰斗として既に数十年来ひろく知られているが，現在 Missouri 大学地質教室主任として多忙な日を送つている。目下 North American Mesozoic Charophyta なる大部の monograph を地質調査所 Special Paper に投稿中で，執筆中の Treatise on Invertebrate Paleontology の Charophyta の項と共に，此の分野の集大成として，また手引としてその刊行が待たれている。この 3 月に地質調査所で開かれた非海成堆積物のシンポジウムで Phylogeny and ecology of the Charophyta なる興味深い総括的報告を行い，中でも同類の示相化石としての役割では専門外の者の注目を集めた。

REZAK 博士は，地質調査所の化石石灰藻関係責任者で，Type 標本の管理にあたつており，若手で将来最も活躍の期待される 1 人である。目下は Texas の二畳系はじめ各地の標本採取に専念している。Syracuse 大の学位論文である先カンブリア及びカンブリア紀の層状藻類 (Stromatolites) の報文が地質調査所報告として近刊の予定で，略同内容の要旨が夏のメキシコの万国地質学会議に提出されている。